

# 大学入学共通テスト試行調査 2018.11 現代社会

## 全体概要

制限時間	60分	配点	100点	大問数	6大問
出題分野	私たちの生きる社会、現代社会と人間としての在り方生き方				
難易度	※対現行センター試験		やや難		
解答形式	マーク式				
主な特徴	※対現行センター試験		小問の約半数に図表や引用文などの資料が示されていて、それらの資料を読み取るのに時間がかかる問題になっている。		

## 全体出題傾向

### ◆与えられた資料を読み取る情報処理能力が求められる

常識レベルの知識または教科書レベルの知識があれば正解を導き出すことができるが、この類の問題は解き方に慣れていないと、与えられた資料をどのように読み解くかというところで時間がかかる。また、高い論理的思考力を要求する問題も散見されるので従来のセンター試験に比べるとやや難しくなったといえる。

## 対策

### ◆演習問題を通して問題形式に慣れることが大切

センター試験とは比べものにならないほどの大量の資料が用意されている問題を解くことになる。教科書レベルの基本的な知識も最低限必要ではあるが、それ以上に問題を解く技術的なものを習得しておかないと時間内に問題が解き終わらないなどという問題も起こりかねない。したがって、従来のセンター試験に向けての学習では不十分であり、これまで以上に演習問題にかかる時間を十分にとり出題形式に慣れておく必要がある。

## 大問別コメント

### 第1問

学校新聞の作成を通して、記事にする現代社会の諸問題などをとりあげ、民主主義のあり方や青年期のあり方などにも触れ、よりよい社会のあり方について「幸福・正義・公正」の観点から考察を行う力を問う問題。

### 第2問

地方自治のしくみや行政、政治制度、国際社会についての基本的知識を問う問題。問5の問題は、起こった出来事の年がすべて正確に記憶されていないと正解を導きにくい問題になっている。「共通テスト」では何となくわかっている程度では正解が導き出せない工夫がされている。

### 第3問

最高裁判所の判決文を通して、国民主権や基本的人権に関する基本的知識と選挙や教育に関する制度について多面的に理解する力を問う問題。問5の問題は論理的思考力が強く要求される問題でかなり難しいと思われる。

### 第4問

アダム・スミスの『国富論』の「見えざる手」に関する部分の引用文を提示し、経済思想や経済政策についての基本的知識を問う問題。いずれの問題も平易な問題であると思われる。

### 第5問

「持続可能な開発」の話をきっかけとし、現代の抱える諸問題を理解し、社会保障制度などを通して問題解決に取り組むことができるような力を問う問題。問2の問題は3つの表にまとめられたデータを同時に読み取る問題で難しいと思われる。

### 第6問

食をめぐる社会問題の解決策の検討を通して、国際社会における貧困や格差について考える問題。問1の資料は6つあり、問題を解決する際に的確にどの資料を用いるかという判断力を問う問題で「共通テスト」の典型的な出題形式であるといえる。